

平成30年の最上川渇水状況について（速報） 《平成30年8月31日 時点》



菖蒲観測所（白鷹町）付近の河川状況（H20.7.26撮影）



過去最低の貯水位を記録した白川ダム（H20.8.20撮影）

平成30年9月3日
最上川水系渇水情報連絡協議会
（事務局：山形河川国道事務所）

※数値は速報値ですので今後の精査により変更する場合があります。

降雨の状況（6月～8月）

山形県内の6月～8月の降水量は、**村山の一部と置賜**では6月から7月にかけて**平年の2～3割程度**しかなく、**かなり少ない状況**となった。

8月に入り、台風や前線などの影響により県内各地で平年の2倍以上（多いところでは5～6倍）の降雨を記録しているが、**置賜地方では平年並み程度の降水量**しかなく**かなり少ない状況**であり、**3ヶ月間の総降水量も平年よりもかなり少ない状況**となっている。

平年値

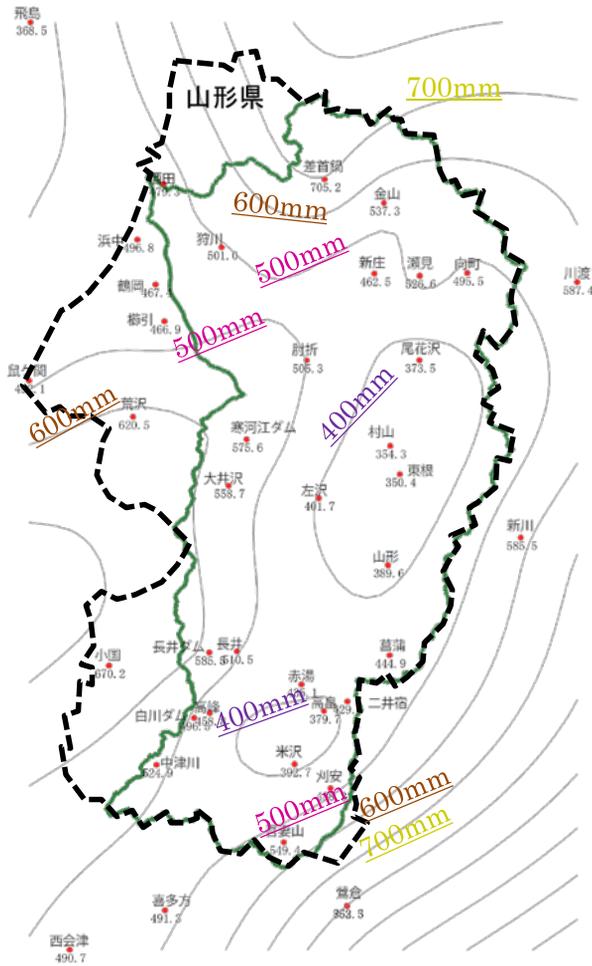


図1 アメダス6～8月降水量平年値

平成30年

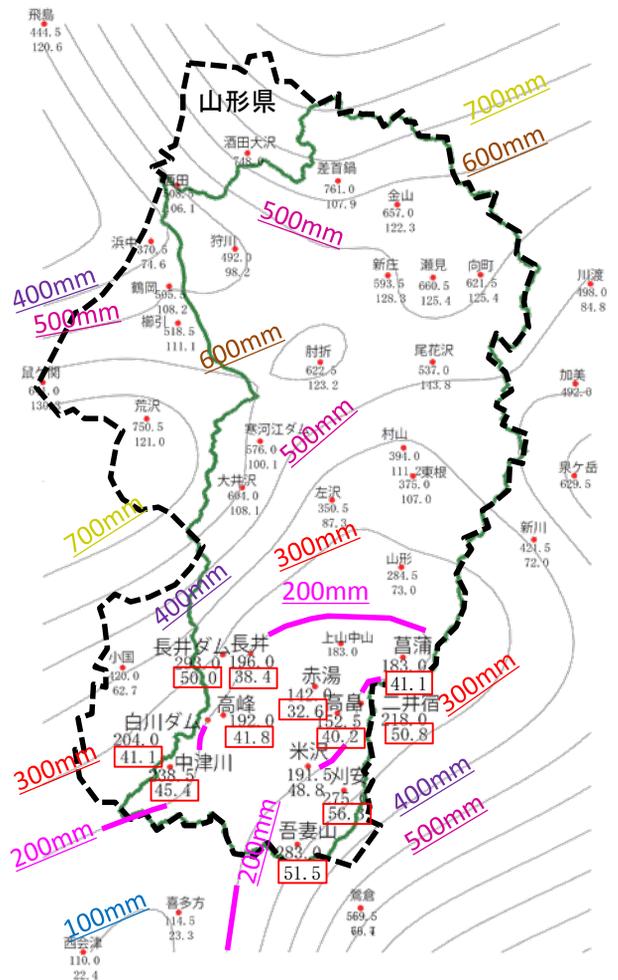


図2 アメダス平成30年6～8月降水量
(上段:降水量 下段:平年比)

山形県内各地域の降水量状況(6月～8月)

		6月			7月			8月(8/1～8/27)			6月～8月総計		
		H30	平年	平年比	H30	平年	平年比	H30	平年	平年比	H30	平年	平年比
村山	山形	42.5	110.5	38	52	157	33	190	122.1	156	284.5	389.6	73
	左沢	40.5	115.8	35	50	175.1	29	260	110.8	235	350.5	401.7	87
	尾花沢	71.5	107.6	66	37.5	155.1	24	428	110.8	386	537	373.5	144
荘内	酒田	84.5	120.7	70	80.5	209	39	343.5	149.6	230	508.5	479.3	106
	狩川	85	122.8	69	75.5	214.8	35	331.5	163.4	203	492	501	98
	榊引	108.5	125.8	86	55.5	192.7	29	354.5	148.4	239	518.5	466.9	111
最上	新庄	96	127.2	75	71	197.1	36	426.5	138.2	309	593.5	462.5	128
	肘折	82	134.5	61	43.5	210	21	497	160.8	309	622.5	505.3	123
置賜	差首鍋	146	181.6	80	106.5	317.6	34	508.5	206	247	761	705.2	108
	米沢	43	111.8	38	44.5	158.2	28	104	122.7	85	191.5	392.7	49
	長井	35.5	147.3	24	47.5	232.4	20	113	130.8	86	196	510.5	38
	中津川	51	142.1	36	37.5	221.9	17	150	160.9	93	238.5	524.9	45

かなり少ない
少ない

※6月～8月の総計は8/27までの降雨量による比較

流量の状況（6月～8月）

①

最上川の流量は小雨の影響により徐々に低下し、7月中旬頃から多くの観測地点で基準流量を下回る状況となった。

8月の降雨により、現在の流量は回復したが、全国規模の渇水であった平成6年に匹敵する流況となった。

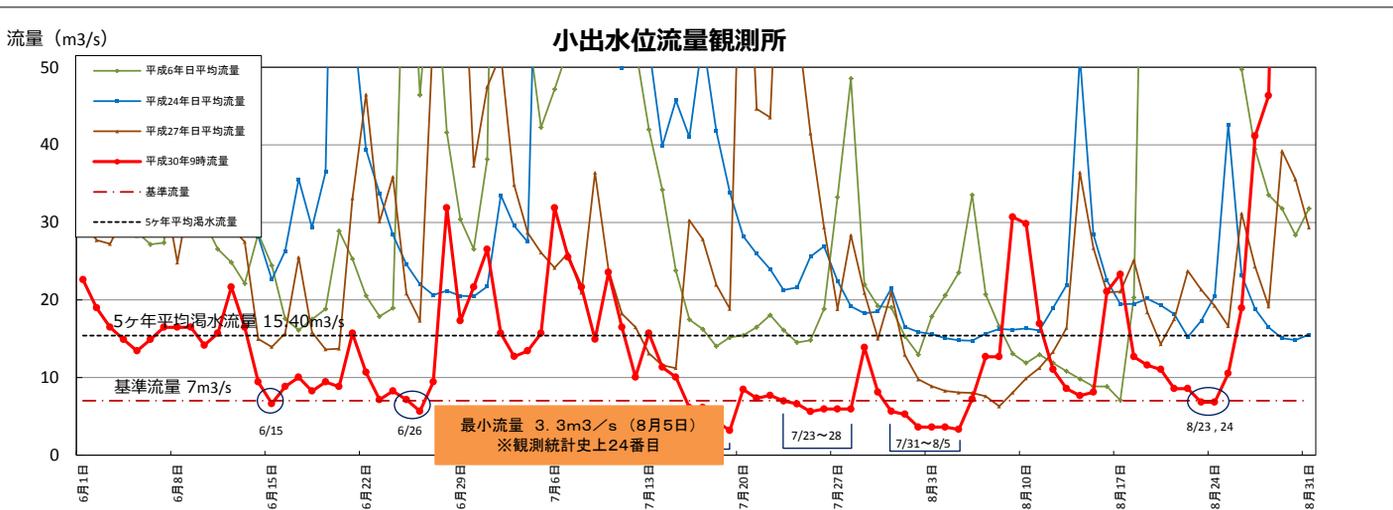
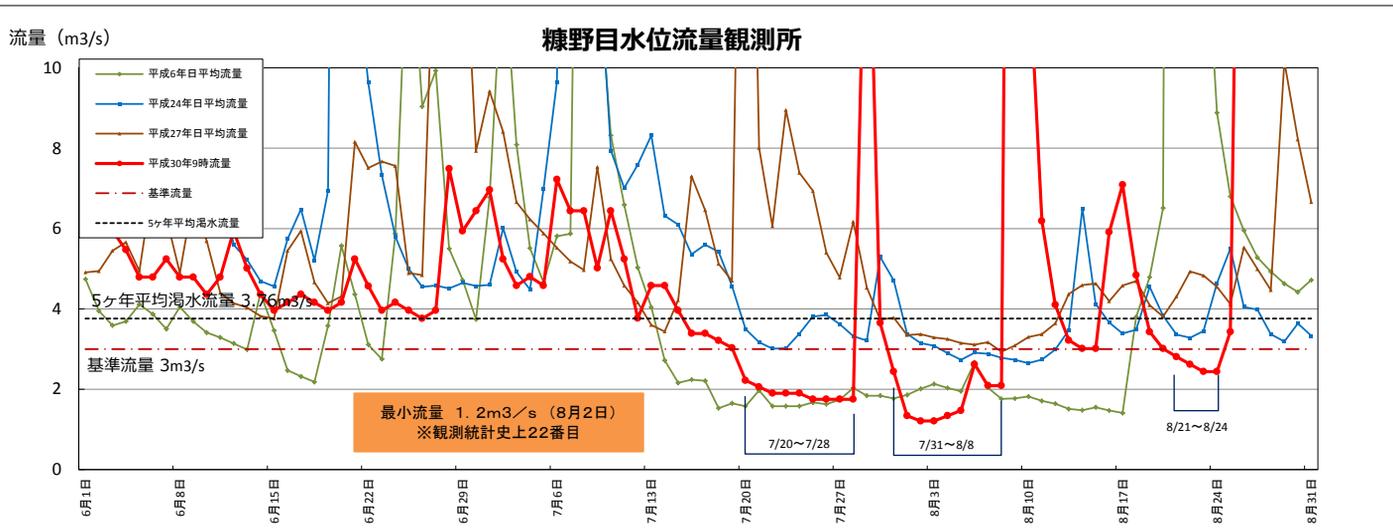


基準流量※を下回った日数	H6年 (6/1～8/28)	H24年 (6/1～8/28)	H27年 (6/1～8/28)	H30年 (6/1～8/28)
糠野目	40日	9日	1日	22日
小出	0日	0日	1日	20日

※「基準流量」とは、渇水対策支部設置の基準となる流量

※H6,H24,H27は日平均流量

※H30は9時流量

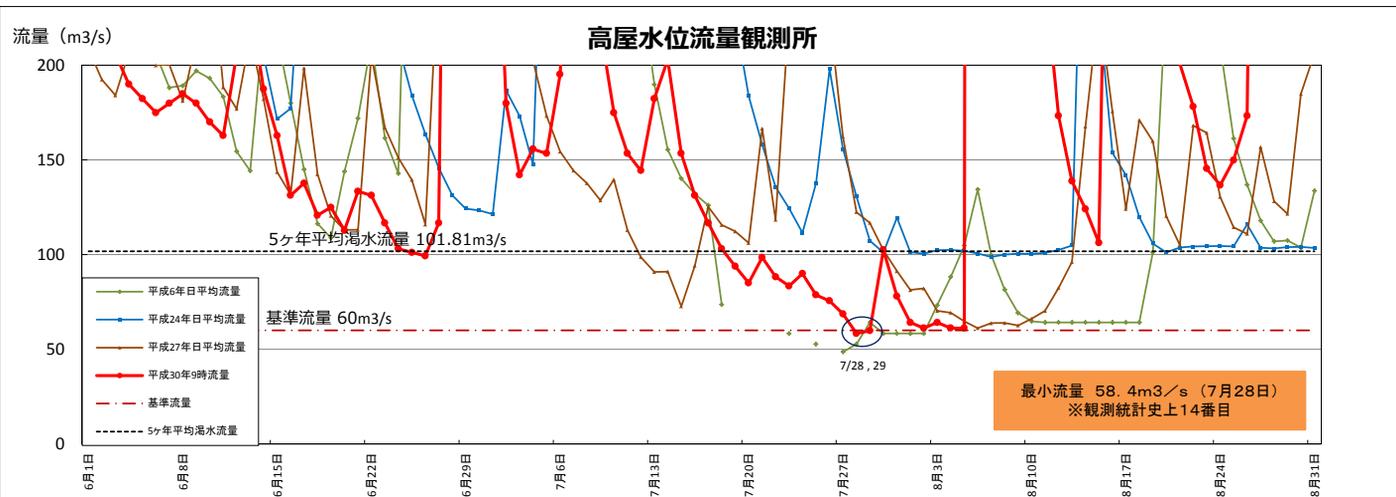
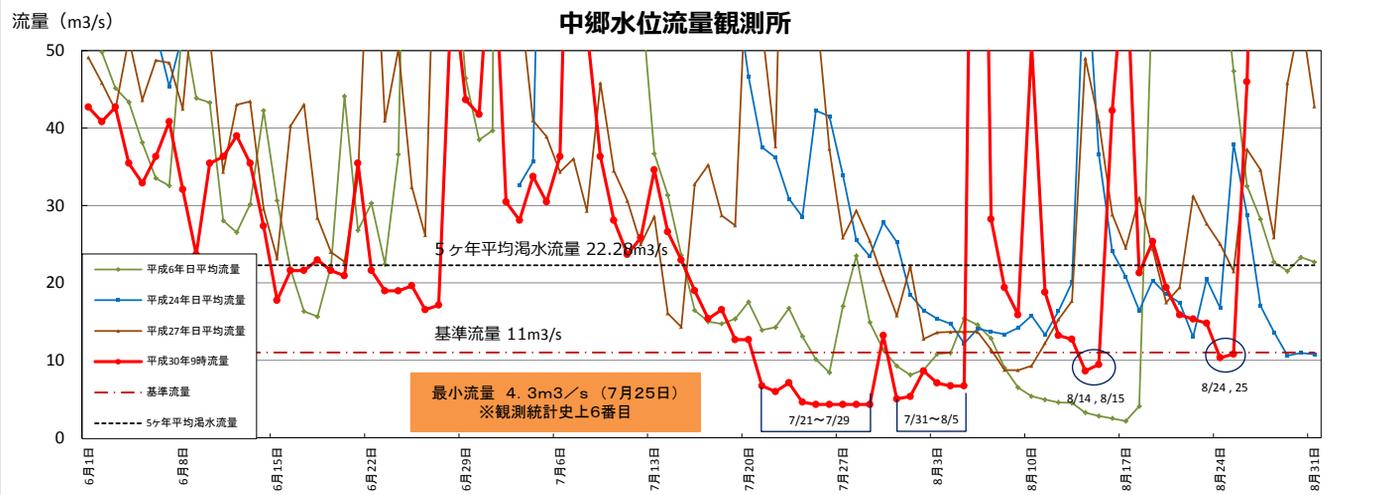


流量の状況（6月～8月）

②



基準流量※を下回った日数	H6年 (6/1～8/28)	H24年 (6/1～8/28)	H27年 (6/1～8/28)	H30年 (6/1～8/28)
中郷	18日	3日	3日	19日
稲下	0日	0日	0日	0日
高屋	8日	0日	0日	2日



河川の状況（定点写真）

米沢市上新田付近（上新田橋下流）



渇水の状況（7/26撮影） 水位8.89m



平年の渇水程度の状況

寒河江市中郷付近（此の木橋下流）



渇水の状況（7/27撮影） 水位9.96m



平年の渇水程度の状況

村山市南河島付近（基点橋下流）



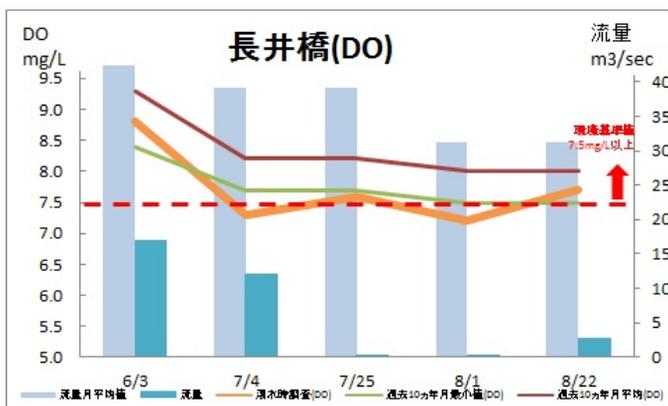
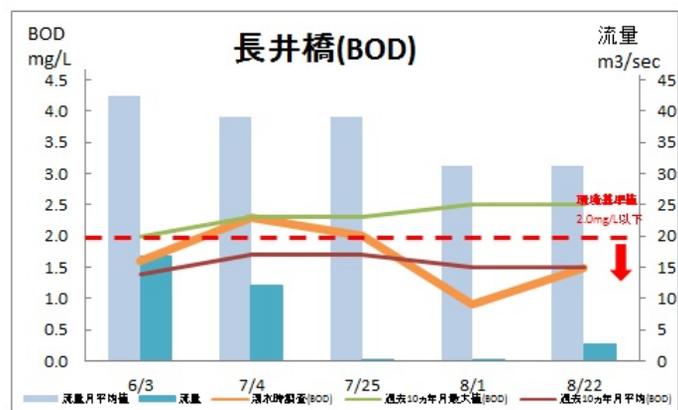
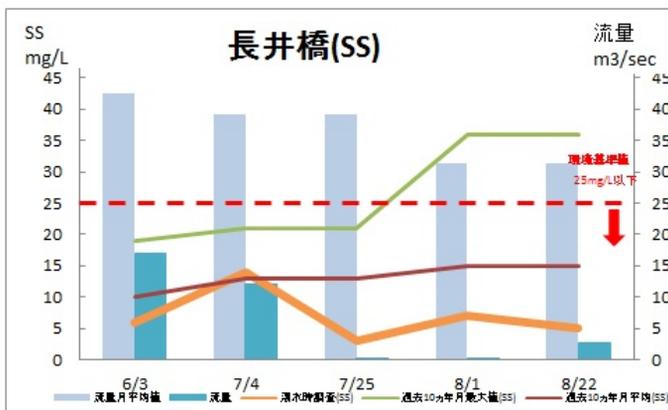
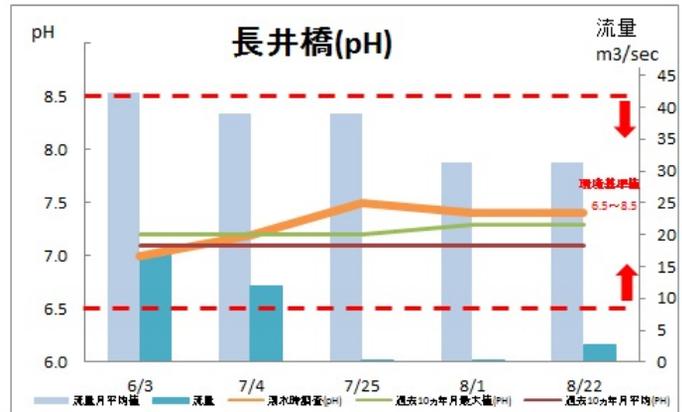
渇水の状況（7/27撮影） 水位10.26m



平年の渇水程度の状況

水質の状況

最上川における流量の減少に伴う水温上昇の影響などで、一部水質項目において環境基準値を超えたものの、魚の斃死や生態系への影響は確認されなかった。



【凡例】



PH : 7月以降は比較的高い傾向を示しているが、環境基準値内

SS : 環境基準値内(良好)

BOD : 7月に若干環境基準値超過したが、8月以降は基準値内

DO : 7月以降、環境基準値を若干超過したが、流量の回復とともに平年並みに落ち着いた

協議会の対応

最上川の流量や各ダム貯水量が基準を下回り、早期の回復が見込めない状況となったことから、最上川水系渇水情報連絡協議会では臨時の幹事会を開催し、流域内の関係機関との情報共有や連携の強化など、被害の防止と軽減に努めるとともに、国交省の各事務所では渇水対策支部(注意体制)を設置し、流況等の監視強化を図るとともに、関係機関等との情報共有や調整などに努めた。

平成30年の渇水は平成6年に次ぐ渇水となったが、合理的な水利用の調整と最上川への直轄ダムからの補給などをはじめ、緊密な連携による対応を行った結果、一部で取水制限等が行われたものの、断水や稲枯れなどの大きな被害はなく、山形県の水稲の作柄は平年並みの見込み(H30.8.31東北農政局発表)となっている。

最上川水系渇水情報連絡協議会の対応

1) 臨時幹事会の開催

第1回 7月13日: 構成員毎の情報提供と共有、連携の強化を確認

第2回 7月27日: 構成員毎の情報提供と共有、連携の強化を確認

第3回 8月31日予定(洪水対応に伴い順延)



幹事会

2) 構成員の主な対応

① 酒田市上水道(山形県企業局)

塩水遡上の影響による酒田市上水道の取水停止に対し、関係各機関や田川ダムとの連携・調整により影響を緩和。



幹事会

② ダム(国、県)

利水者とのきめ細やかな調整を実施。

白川ダム等ではかんがい用水や河川の流況改善としてダムからの補給を実施。

- ・白川ダム利水調整会議の実施(3回)
- ・長井ダム利水者調整会議の実施(2回)
- ・寒河江ダム利水者調整会議の実施(1回)



流量観測

3) 渇水対策支部の設置

○山形河川国道事務所 7月20日 注意体制

○酒田河川国道事務所 7月30日 注意体制

○新庄河川事務所 7月30日 注意体制

○最上川ダム統合管理事務所 7月20日 注意体制



採水(水質調査)

※流況の把握や瀬切れの状況(定点写真、UAVなど)

水質変化による魚の斃死などの確認とともに、臨時の流量観測や水質調査などによる監視の強化。



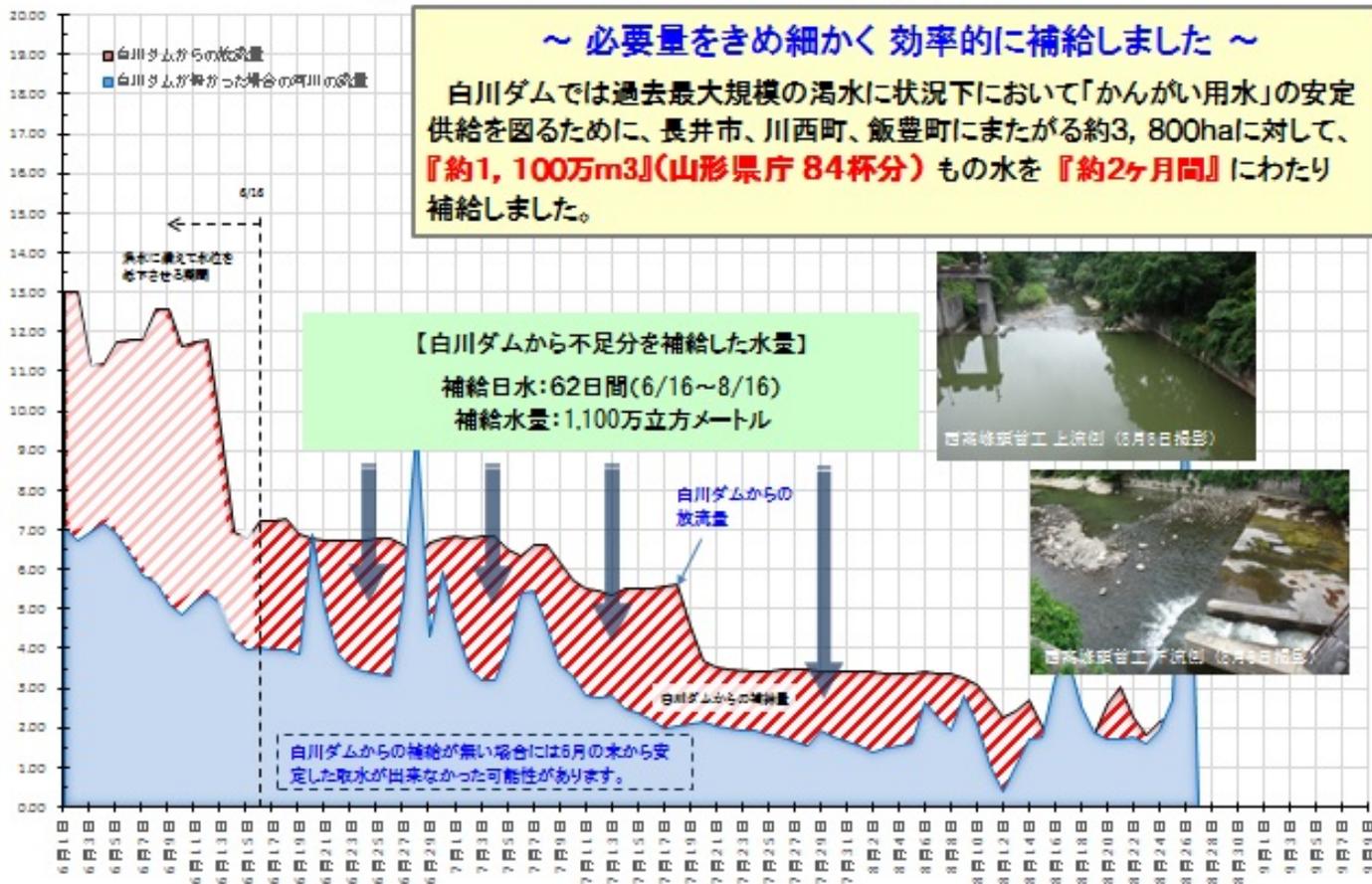
UAV撮影

直轄ダムの対応

白川ダムからの補給状況について

～ 必要量をきめ細かく 効率的に補給しました ～

白川ダムでは過去最大規模の渇水に状況下において「かんがい用水」の安定供給を図るために、長井市、川西町、飯豊町にまたがる約3,800haに対して、『約1,100万m³』(山形県庁 84杯分)の水を『約2ヶ月間』にわたり補給しました。

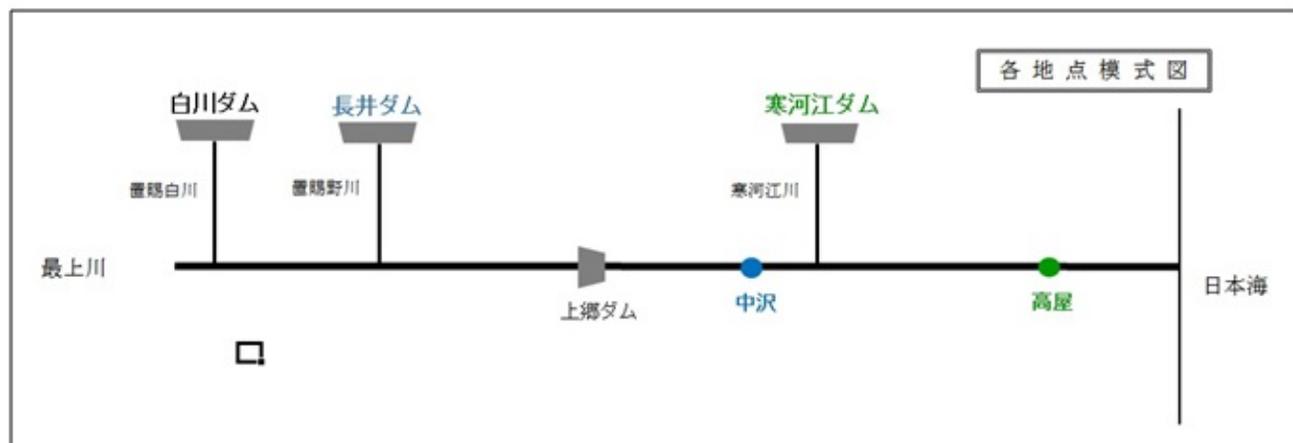


～ 長井ダム・寒河江ダムから最上川へ補給を実施 ～

・最上川本川に対して長井ダム及び寒河江ダムから補給を実施し流況を改善

【長井ダム】7日間にわたり(2～4m³/s)約190万m³(山形県庁 15杯分)の補給を実施
※長井ダムについては、管理移行後初の、最上川本川への補給を実施

【寒河江ダム】6日間にわたり(1～5m³/s)約99万m³(山形県庁 8杯分)の補給を実施
※寒河江ダムについては、H6年以来 24年ぶりに最上川本川への補給を実施



最上川渇水対応を協議

山形ダム貯水位、流量も低下

国土交通省山形河川国道事務所など関係機関でつくる最上川水系渇水情報連絡協議会の第2回臨時幹事会が27日、山形市の同事務所で開かれた。少雨のためダムや農業用ため池の貯水量が平年より少ない現状、台風12号による降雨量を注視し対応に当たる方針などを確認した。

山形地方気象台の説明で、7月1〜26日の間、特に村山や置賜地方の降水量が平年の3割以下にとどまっているデータが示された。台風12号の影響で28日の県内は午後から山沿いを中心に雨が降ると予想されるが、一時的な降雨にとどまる可能性があり、「今後も気の抜けない状況が続く」とした。

白川ダム（飯豊町）や蔵

王ダム（山形市）の貯水位が平年より低下している現状も報告された。上郷ダム（朝日町）も流入量が少なく、管理する東北電力の担当者も、現在は水力発電事業を停止していることを明らかにした。2015年以降の対応だという。また県の担当者は、県内河川の流量が低下しているため、アユ釣りにも悪影響が出ている地域が多いとした。

現時点では渇水による取水障害は確認されていない。山形河川国道事務所は「関係機関が連携を深め、引き続き情報を共有して対応したい」と呼び掛けた。



酒田、最上川水量不足
酒田市は28日、最上川の水量不足により塩水が遡上（そじょう）し、水質基準を順守できない可能性があるため、小牧浄水場の取水を停止したと発表した。

同市は田沢川ダムを水源とする県営水道からも水を受けて水道水を提供しており、県営水道からの水量増量や市街地での1割の減圧で対応している。29日以降も取水を再開できない場合は、段階的に給水制限を行う必要があるという。

平成30年7月28日 山形新聞(2)

平成30年7月29日 山形新聞(26)



白川ダム貯水率2%

飯豊あすにもゼロの可能性

主に農業用水を供給する飯豊町の白川ダムの貯水率が約2%まで低下していることが、13日分かった。このまま雨が降らない場合、早ければ15日に貯水率0%になる見込み。7、8月の降雨量が少なく、稲作用の水をいまだ必要としている農家もあり、関係者は危機感を強めている。

白川ダムは長井、川西、飯豊の3市町の農地計約3800haに農業用水を供給している。国土交通省最上川ダム統合管理事務所白川ダム管理支所によると、貯水率が減少したため、7月下旬以降は排水量を通常時の10〜20%に減らした。しかし、その後も多少降雨はあったものの、貯水率はさらに低下。0%になる恐れがある。山などから流入する水をそのまま農業

用水に出水するが、貯水率が不安定になるという。

灌漑（かんがい）用水の管理を行う白川土地改良区によると、この時期にこれほど渇水するのは初めて。同改良区関係者は「8月下旬には稲刈りに向けて水を抜く時期になるので、目安として20日までの1週間程度はなんとか農業用水を確保したい」としながら「根本的な解決は雨が降ってくるのを待つしかない」と話している。

平成30年8月24日 山形新聞(24)

30%減圧取りやめ 米沢市、水道貯水回復傾向

米沢市は29日、少雨が続かなかったが、まとまった雨が降った9月3日から予定していた水道の30%減圧供給を取りやめると発表した。同市は今後も台風の接近などで、ある程度の降雨が見込まれるほか、各世帯などの節水で利用が抑えられていることも30%減圧を再開する理由に挙げた。また、30日深夜に予定していた北部地区（約800戸）の給水を笹野水系から回復。前日は20%台前まで回復した。

一方、同ダムの利水調整協議会が29日、米沢市役所で開かれ、現在、20%制限している水道水の取水量を貯水率が30%を超え、かつ変動が安定した段階で解除する方針を決めた。50%制限している河川維持用水も、貯水率の回復に応じて段階的に制限を緩和し、最終的に貯水率が40%を超え、変動が安定した段階で解除することにした。

平成30年8月30日 山形新聞(28)